

## ■ グループ紹介

## ダイセル化学工業(株)エネルギープロジェクト

## 1. はじめに

当社は総合化学メーカーとして次のような事業分野に重点を置いている。有機合成化学、セルロース誘導体、プラスチック、フィルム、推薬、及び新機性能材料であり、これらの事業が互に重複しながら6工場に分散している。

各事業分野における生産に関する技術の革新向上を主目的とする生産技術部を大阪本社に置いており、多岐にわたる技術に関与しているが、ここではエネルギー問題についての活動を簡単に紹介する。

## 2. エネルギープロジェクト

省エネルギー対策は今や各社とも常時課題となっていることと思われるが、当社も化学産業の宿命的なテーマとして扱ってきている。エネルギー対応の組織としては、従来は特定のグループを設けていなかったが、今年3月からエネルギーグループを常設し、今後のエネルギー革新に対応してゆく。

これまでのエネルギー対策は主として生産技術部が主導的な役割を果たすプロジェクトチームを編成し、状況に応じた運営をしてきた。内容に触れる程の紙面が無いので、その内の3つについて概要を紹介する。

## (1) プロジェクトA

少々旧聞に属するが、当社で最初に編成された省資源省エネルギープロジェクトであり、対象は有機合成部門の一連の製品群を製造する5つの反応系と約40本の蒸留塔を含む製造及び原動プラントのトータルシステムの省資源、省エネルギーであった。

メンバーは生産技術部、施設部、総合研究所、及び工場各部門から化学工学、合成化学、分析、制御、設計、原動関係の技術者約20名で、いろいろな視点からプロセス解析をおこない、2年間で大きなコストダウンを達成することができた。

## (2) プロジェクトB

第2次石油ショックを契機に54年から3年間生産技術部、施設部からの7人がプロジェクトメンバーになり全社的な省エネルギー運動を展開した。この時は全

工場にエネルギー委員会を設置し、各部門で発掘されたテーマの実現化を推進するための情報提供、技術支援を中心に網羅的な進め方をした。その中で1つの特色としては、コンサルタント会社の指導によるプロジェクトを編成し、酢酸セルロース関連プラントの省エネルギーを進めたことである。このプロジェクトは8名の専任メンバーが8ヶ月間に大小さまざまなアイデアを2万件リストアップし、評価、選択の結果約50件を実施するという成果があった。

## (3) プロジェクトC

当社の各工場では殆んどが重油を燃料とするボイラーを使用しており、従来から燃料転換へのポテンシャルは高かったが、立地条件等の問題で実施が困難であるとされてきた。この問題に取り組むため昨年6ヶ月間を限定してプロジェクトチームを編成した。メンバーは生産技術部、施設部、資材部、及び工場の原動部門からの12名で成り、燃料転換のために必要な技術的共通要素と立地的な個別要素を分類整理し、各工場での実施可能な試案の作成をおこなった。この場合は随分社外の方のお世話になった。おかげで今年中に実施が可能となりそうである。

## 3. おわりに

エネルギー問題を扱った3様のプロジェクトを紹介したが、振り返ってみて時々視点やメンバー構成を変えたプロジェクトを編成してエネルギー対策を考える効果があるようである。

所在地：〒590 堺市鉄砲町1

(文責：生産技術部主席部員 中川 保)